

睡眠計を用いた 客観的評価導入による薬物療法への介入

一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん
医薬情報・研修・研究室
深見 伸一

向精神薬の「適正」使用に向けて

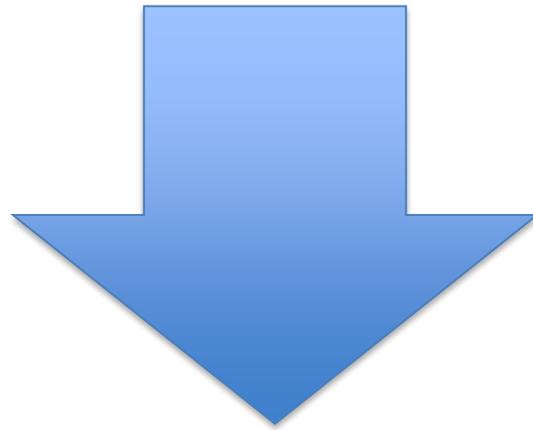
①睡眠薬の多剤・大量・長期処方から「適正」使用へ

②睡眠状況の客観的把握

③医療スタッフ間の協働・連携の円滑化

④ポリファーマシー是正による患者QOLの向上

①睡眠薬の多剤・大量・長期処方の原因は？

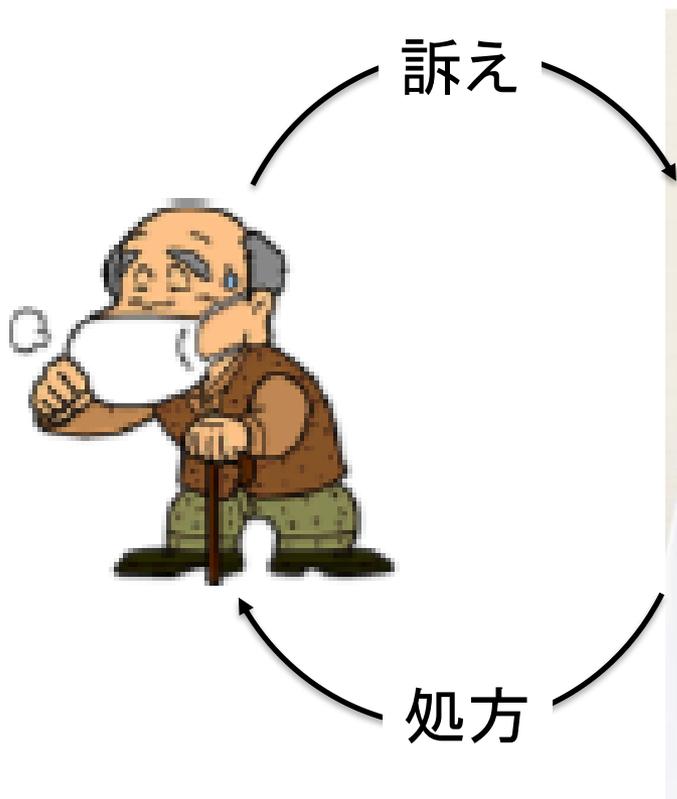


日本人特有の「コミュニケーション不良」？

医師以外のメディカルスタッフ 家族

患者

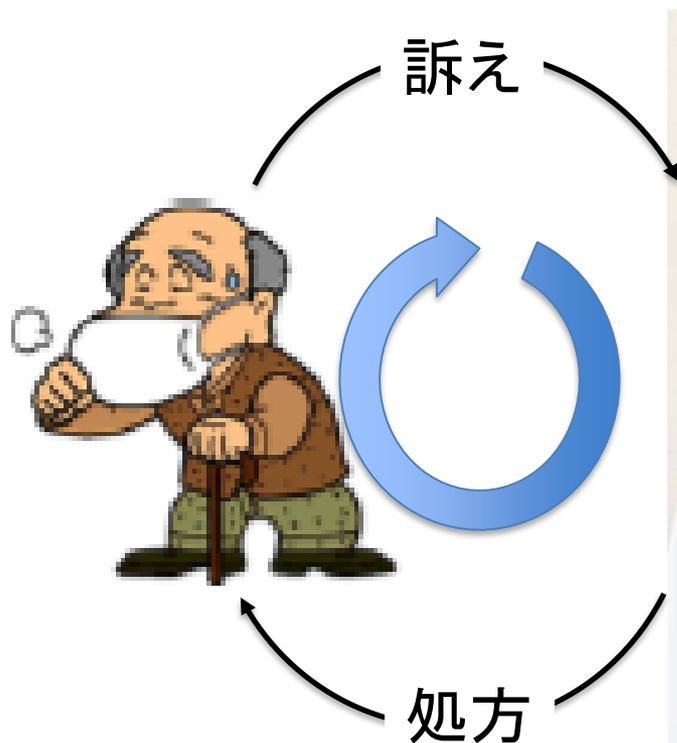
医師



医師以外のメディカルスタッフ 家族

患者

医師

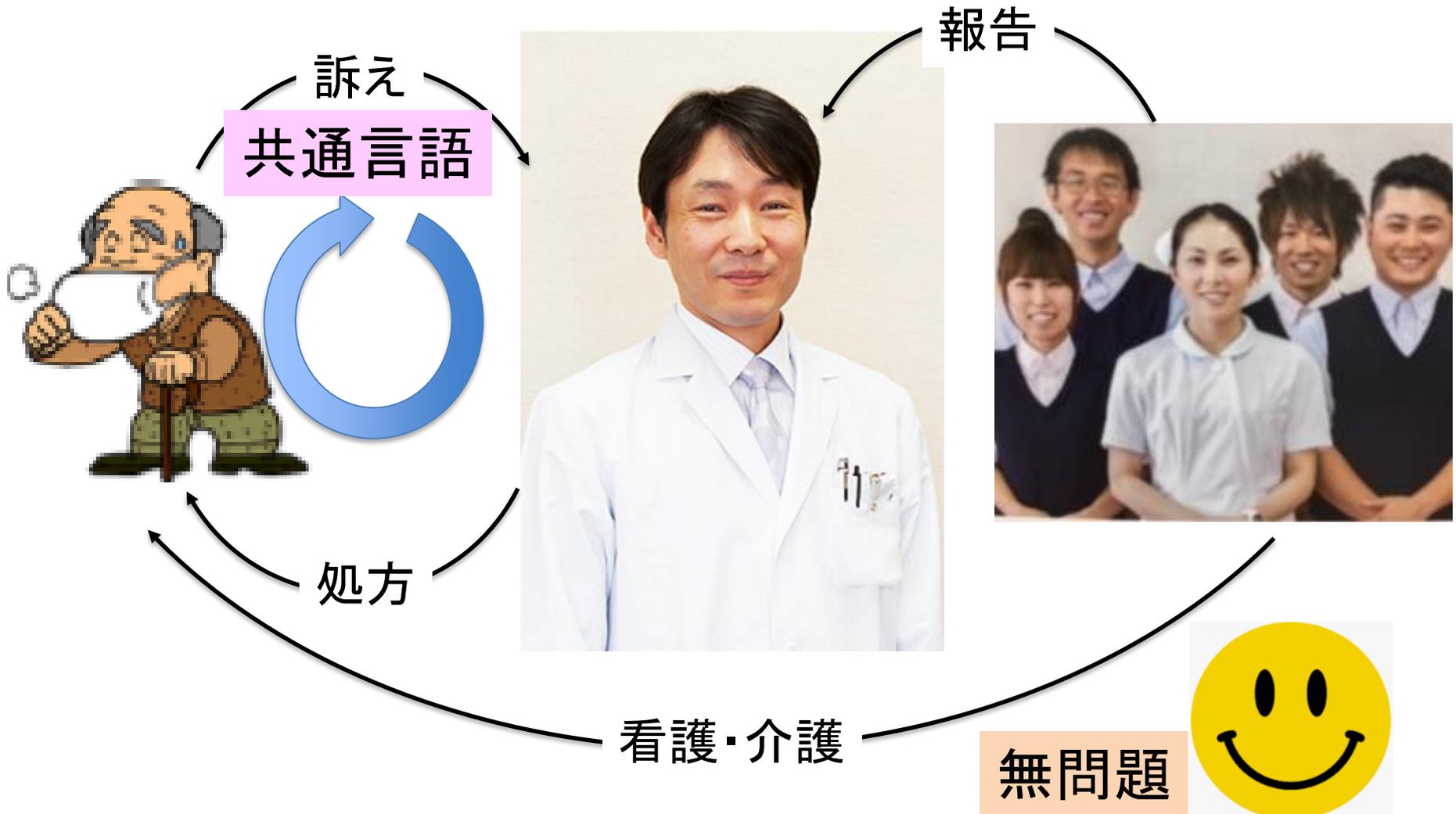


医師以外のメディカルスタッフ
家族

患者

医師

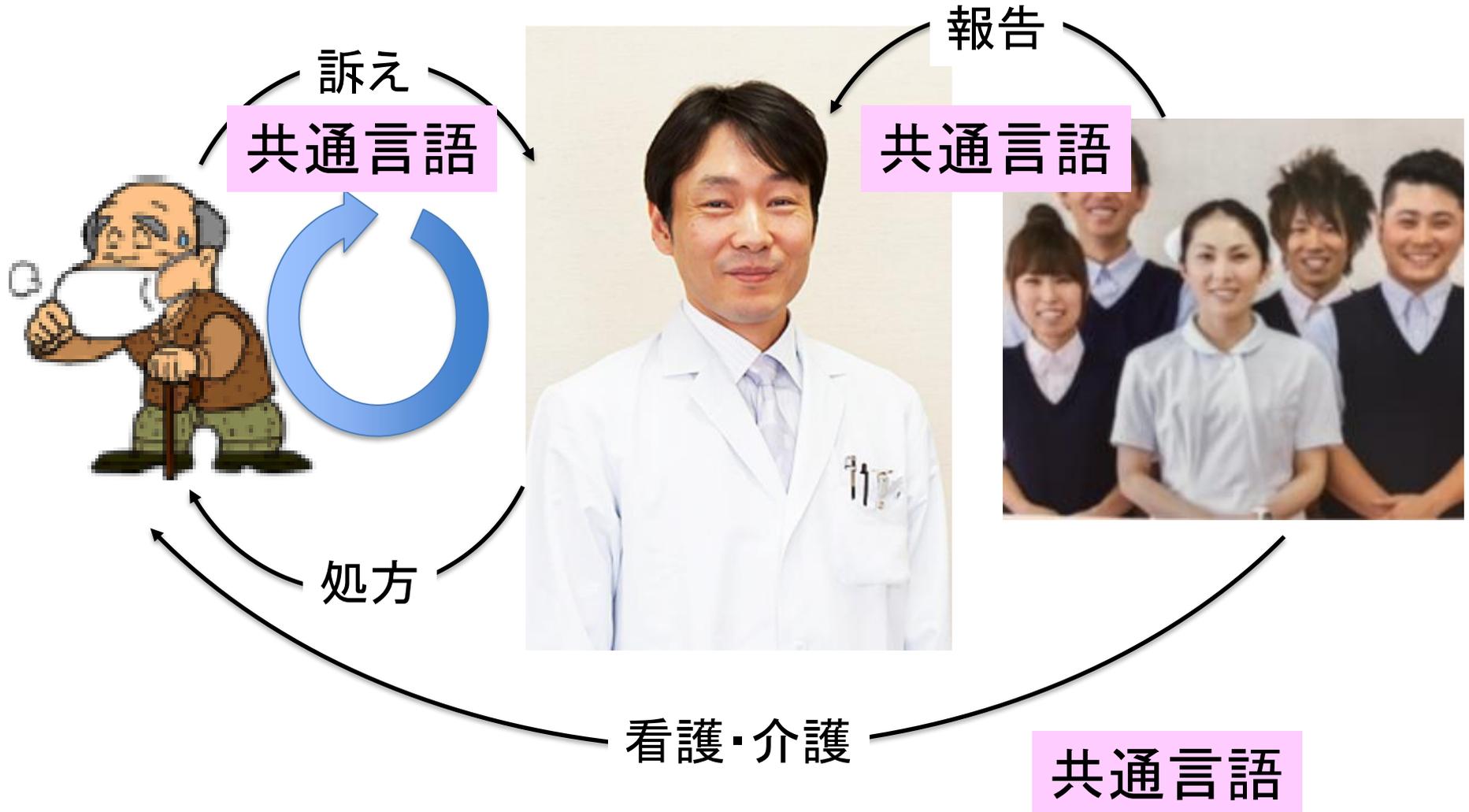
家族



医師以外のメディカルスタッフ
家族

患者

医師



②睡眠状況の客観的把握



睡眠ポリグラフィー

睡眠計



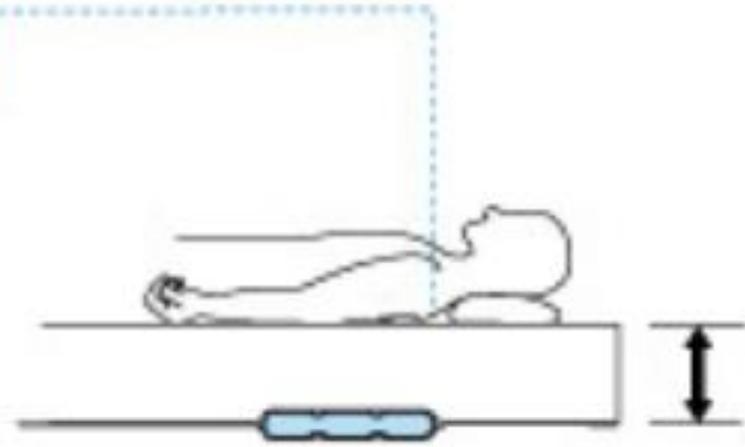
スマホでもできます

当院では不適切、、、？

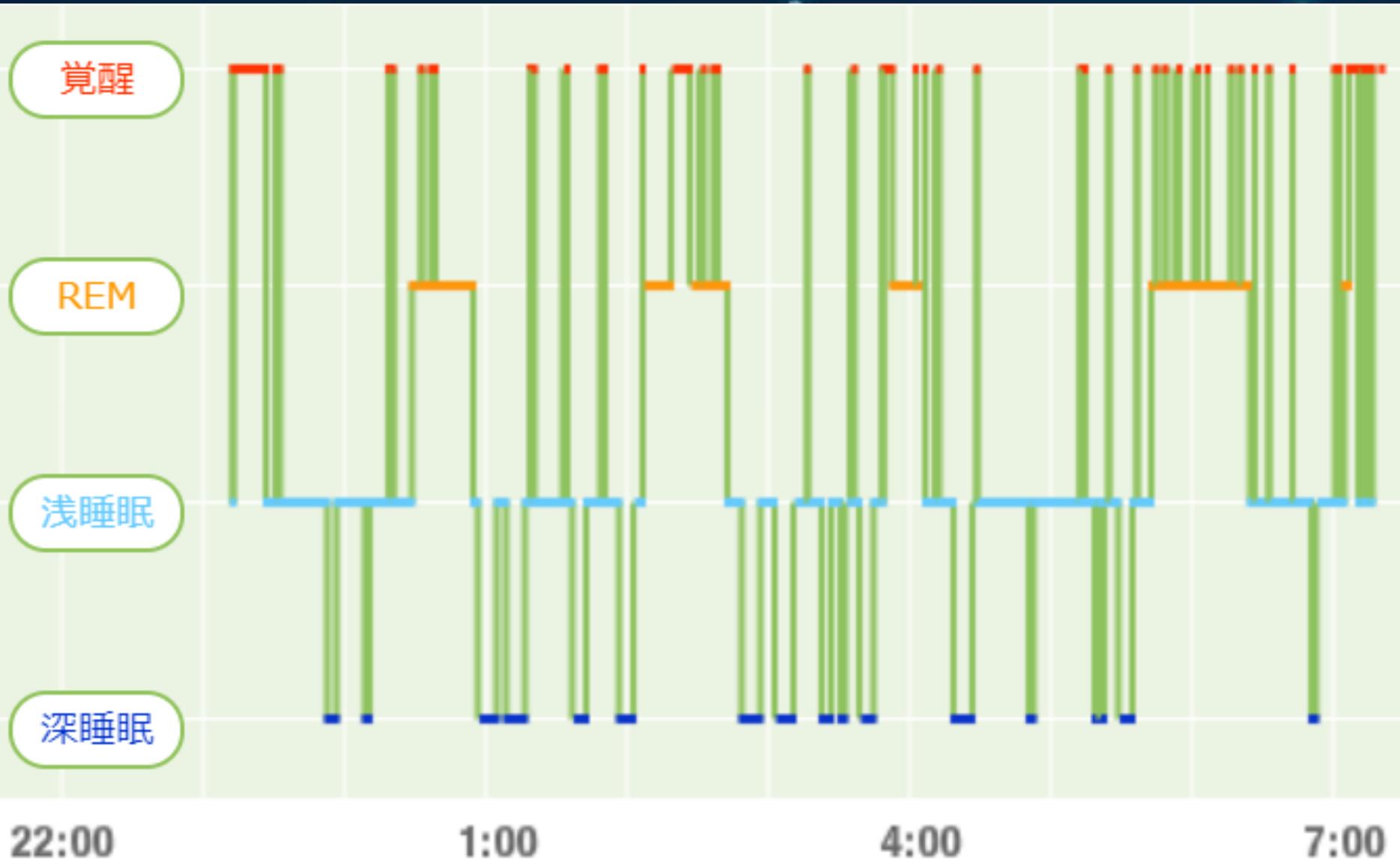
マットタイプ睡眠計



肩の位置



こんな感じのデータが取得できます



72点

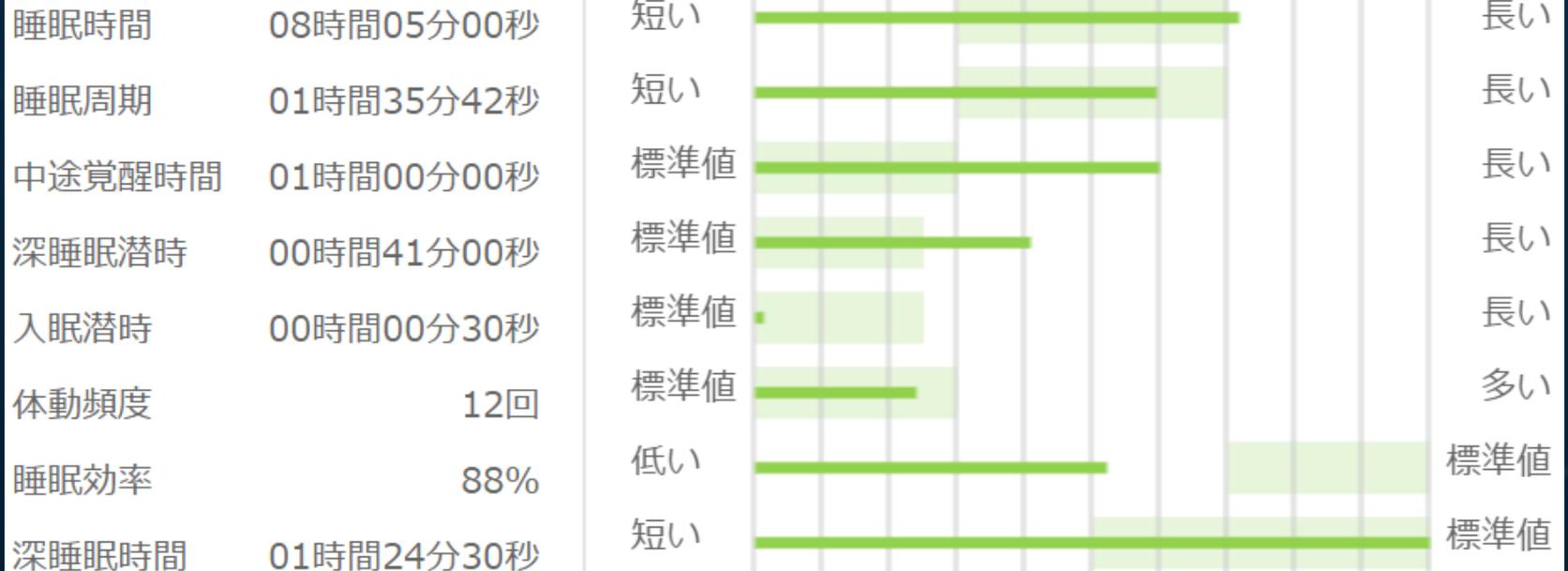
「標準睡眠タイプ」

深い睡眠の量、中途覚醒ともに標準的な睡眠です。

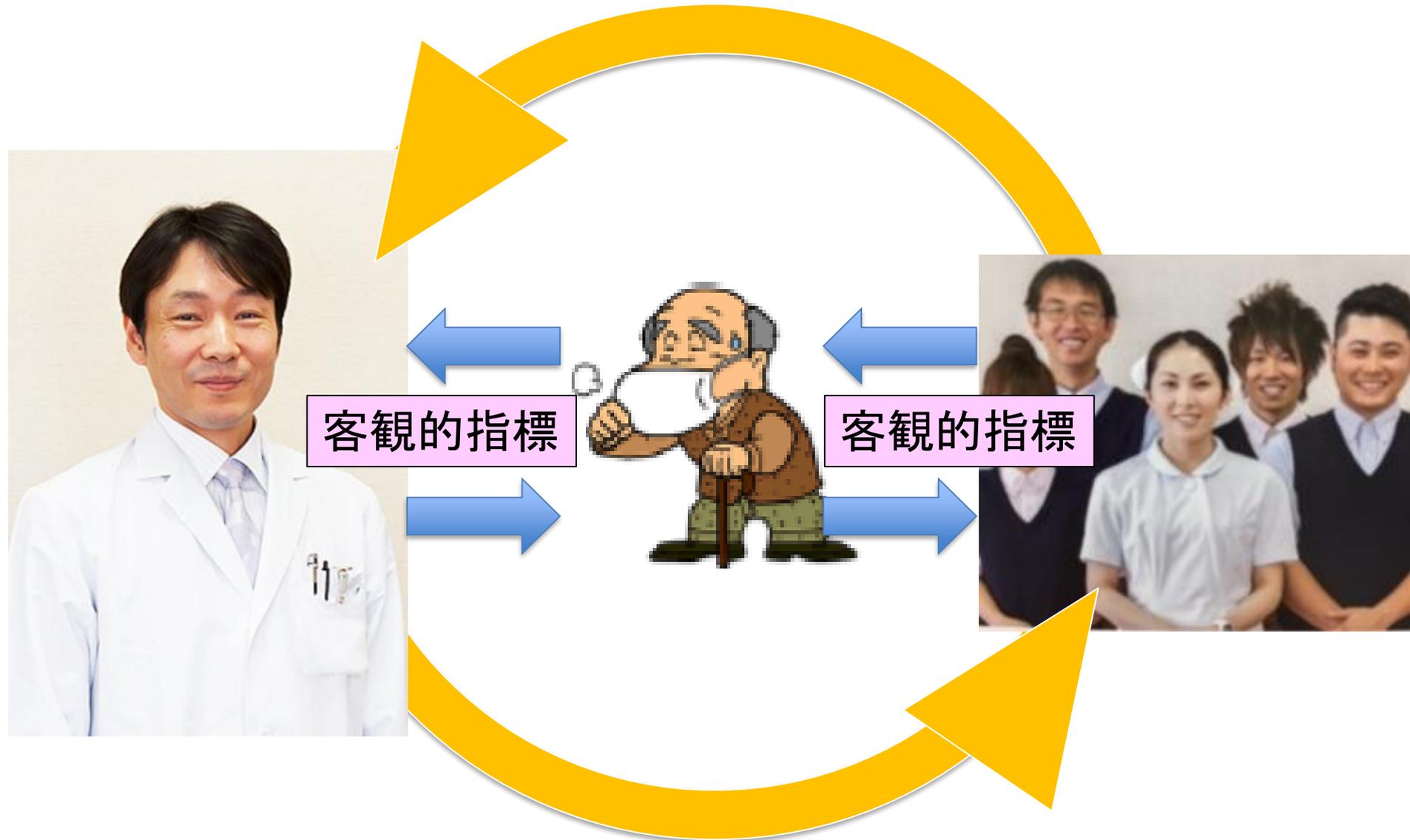
分析ダイアグラム



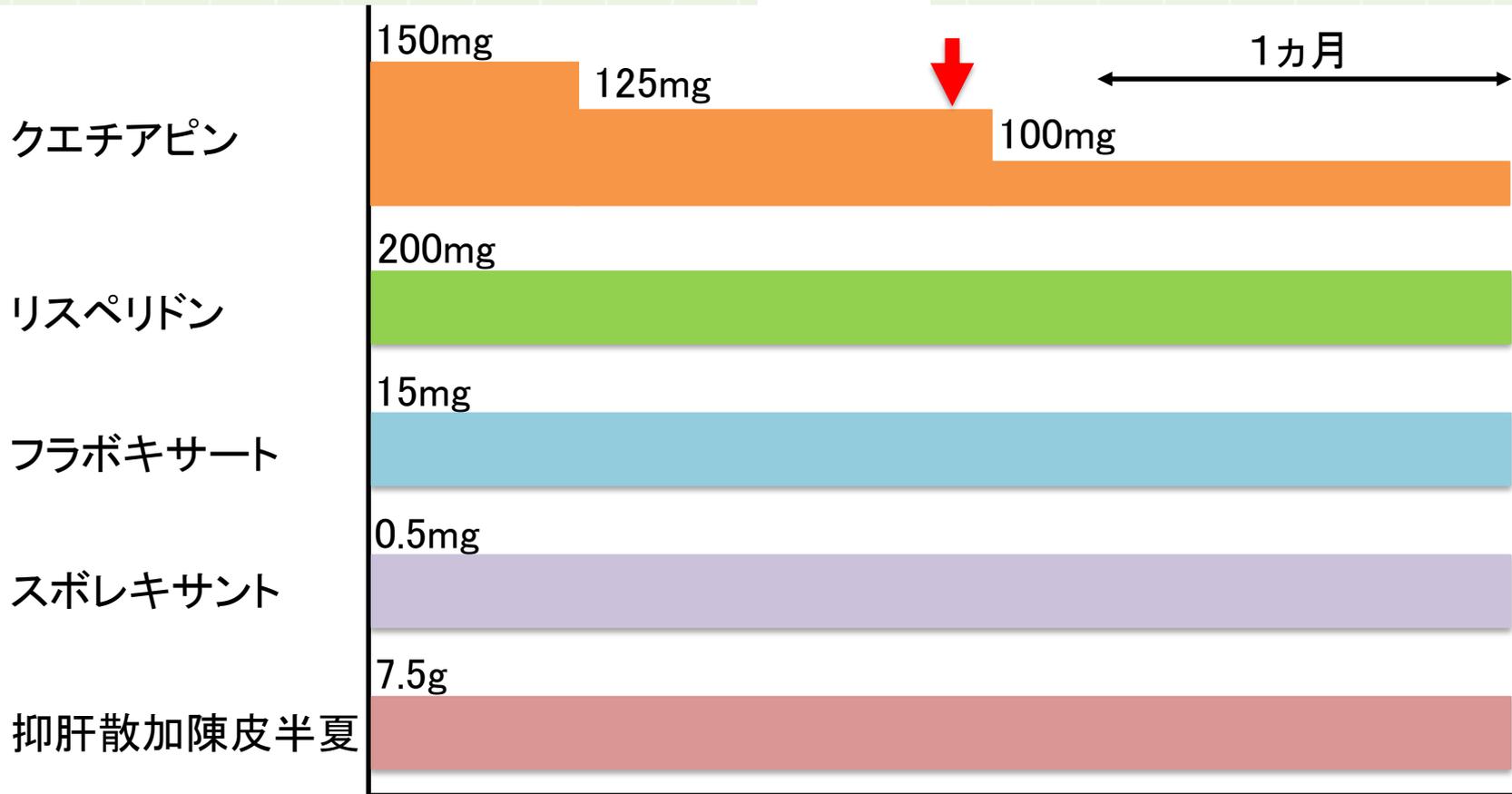
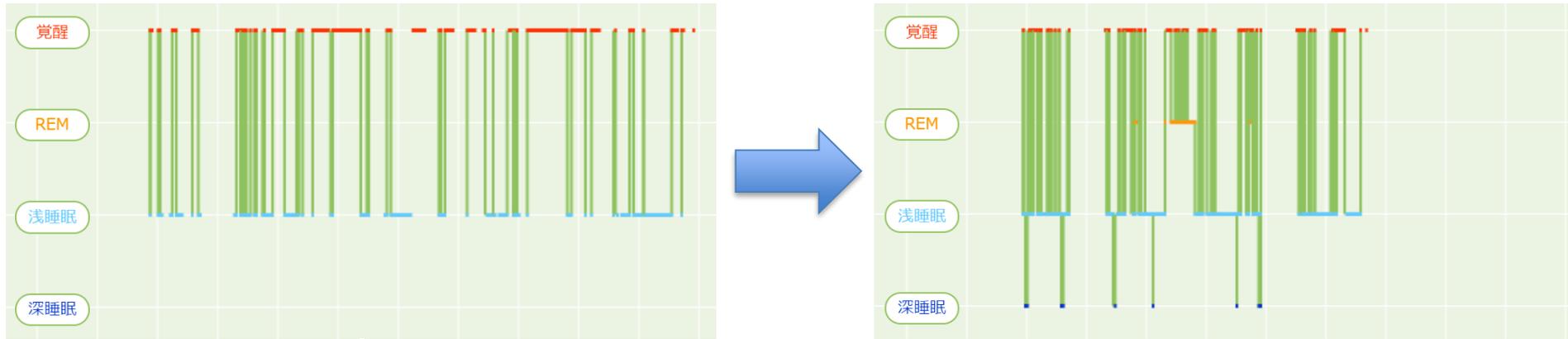
標準値



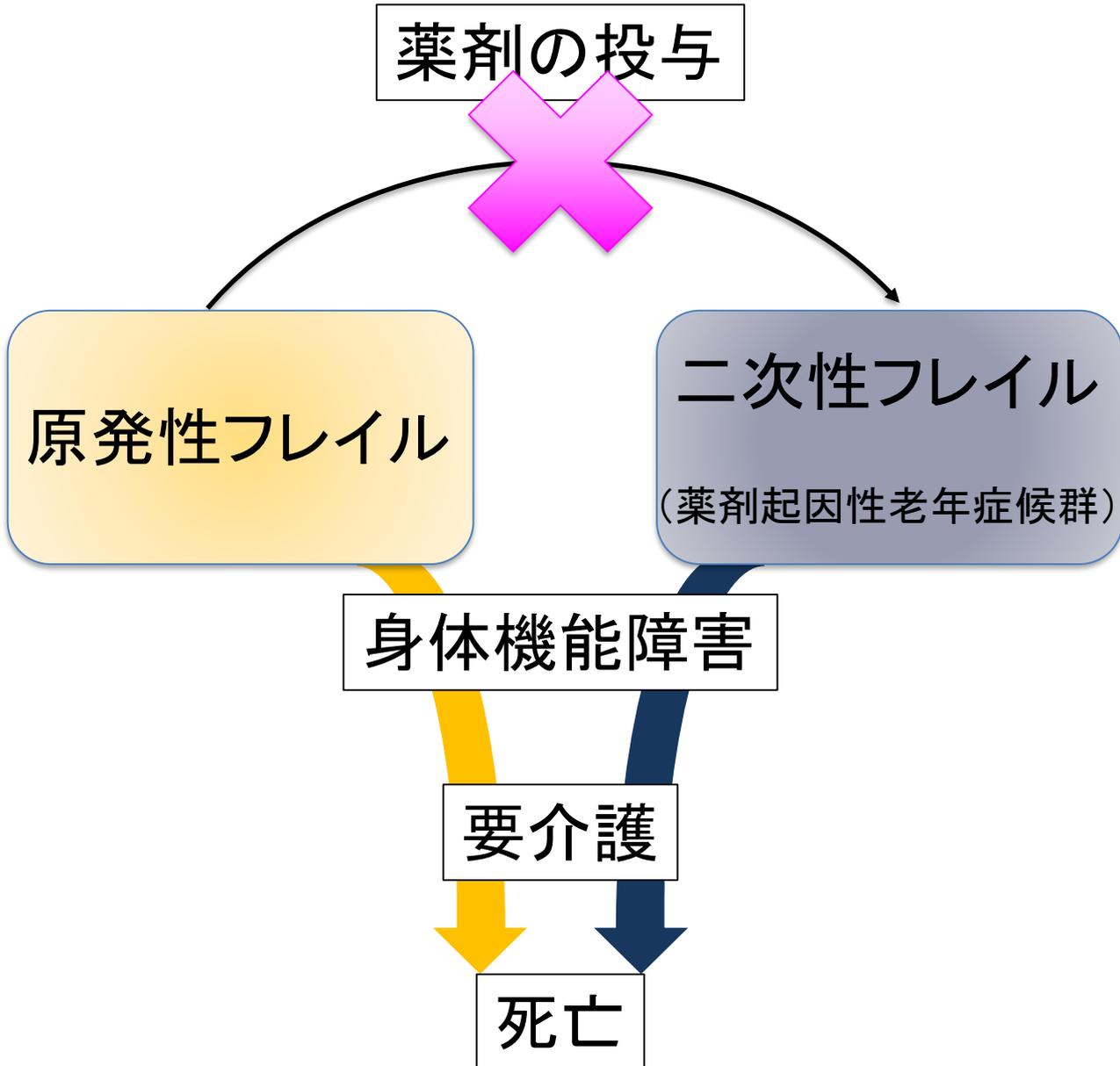
③医療スタッフ間の協働・連携の円滑化



患者例



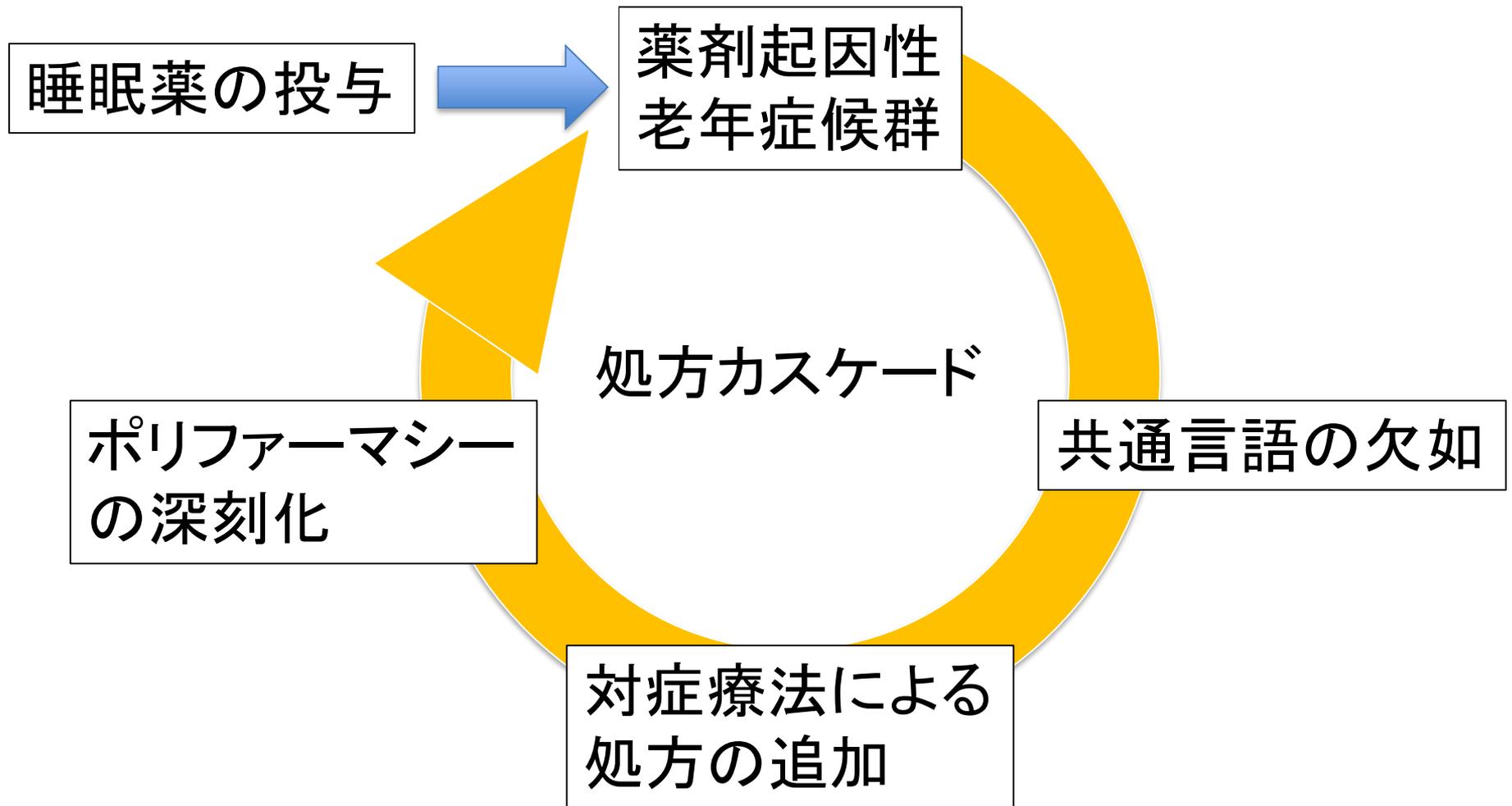
④ポリファーマシー是正による患者QOLの向上



薬剤起因性老年症候群と主な原因薬剤

症候	薬剤
ふらつき・転倒	降圧薬(特に中枢性降圧薬,α遮断薬,β遮断薬), 睡眠薬,抗不安薬 ,抗うつ薬(三環系),抗てんかん薬,抗精神病薬(フェノチアジン系),抗パーキンソン病薬(トリヘキシフェニジル),抗ヒスタミン薬
抑うつ 認知機能障害	中枢性降圧薬,β遮断薬,ヒスタミンH2受容体拮抗薬, 抗不安薬 ,抗精神病薬,抗甲状腺薬 降圧薬(中枢性降圧薬,α遮断薬,β遮断薬), 睡眠薬・抗不安薬 (ベンゾジアゼピン),抗うつ薬(三環系),抗てんかん薬,抗精神病薬(フェノチアジン系),抗パーキンソン病薬,抗ヒスタミン薬(ヒスタミンH2受容体拮抗薬含む)
せん妄	抗パーキンソン病薬, 睡眠薬,抗不安薬 ,抗うつ薬(三環系),抗ヒスタミン薬(ヒスタミンH2受容体拮抗薬含む),降圧薬(中枢性降圧薬,β遮断薬),ジギタリス,抗不整脈薬(リドカイン,メキシレチン),気管支拡張薬(テオフィリン,アミノフィリン),副腎皮質ステロイド
食欲低下	非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs),アスピリン,緩下剤,抗菌薬,ビスホスホネート, 抗不薬 ,抗精神病薬,トリヘキシフェニジル
便秘	睡眠薬・抗不安薬 (ベンゾジアゼピン),抗うつ薬(三環系),膀胱鎮痙薬,腸管鎮痙薬(ブチルスコポラミン,プロパンテリン),ヒスタミンH2受容体拮抗薬,α-グルコシダーゼ阻害薬,抗精神病薬(フェノチアジン系),トリヘキシフェニジル
排尿障害 ・尿失禁	抗うつ薬(三環系),腸管鎮痙薬(ブチルスコポラミン,プロパンテリン),膀胱鎮痙薬,ヒスタミンH2受容体拮抗薬, 睡眠薬・抗不安薬 (ベンゾジアゼピン),抗精神病薬(フェノチアジン系),トリヘキシフェニジル,α遮断薬,利尿薬

客観的指標導入による処方カスケード防止



まとめ

- ・睡眠のような主観的症状は、「共通言語」の欠如が生じている可能性が高い。
- ・睡眠状況の客観的把握は、院内の関係者間の「共通言語」を醸成する。
- ・「共通言語」の醸成により、関係者間のコミュニケーションが円滑になる。
- ・結果として、ポリファーマシー化の進行が抑制され、患者QOLの向上につながる。

ご清聴ありがとうございました



ハートランド
しきさん

財団法人信貴山病院

床頭看護職員

心療内科、精神科、小児科
神経内科、皮膚科、泌尿科

ハローケア 立見看護スラーシモン
院外在宅看護センター